

『焦氏易林』校注釈義 (一)

鈴木 由次郎

乾之第一

乾 道陟石阪。胡言連蹇。譯瘖且聾。莫使道通。請謁不行。求事無功。

道、石阪を陟る。胡言連蹇。訳瘖且つ聾。道をして通ぜしむる莫し。請謁行はれず。求むる事、功無し。

●「石」の字、汲古本「多」に作る。宋本に従う。●胡言―西北方の夷狄の言葉。胡は北狄、乾の位は西北方、故に胡言という。●連蹇―口が吃ること。揚雄の解嘲に「孟軻連蹇」注に「連蹇、言語不便利也」。●瘖且聾―瘖は啞、おし。聾はつんば。請謁―貴人に面接して事を頼む。

石の坂道をあえぎあえぎ登る。道を尋ねても、西北方の蠻地の人の言葉は、口が吃って何を言っているのかわからない。通訳する人も

啞やつんばのようにだまっている。どちらに行ったらよいのかさっぱり分らない。「これと同じわけで」貴人にお目にかかって頼んでも無駄であり、事を求めても効果はない。(凶)

附説 この林辞は字義や事実が稍晦僻に渉る。恐らく譌誤があるのであらう。

乾之乾は純陽で、陽が陽に遇うから窒がる。故に吉でないのである。林辞は四句が原型で、それに押韻したもののである。従って末の「請謁不行。求事無功」の二句は後の易家によって他の易林の繇辞が挿入されたものであらう。

坤 招殃来螫。害我邦国。病在手足。不得安息。

殃を招き螫すを来す。我が邦国を害ふ。病、手足に在り。安息するを得ず。

●「在」の字、汲古本、「傷」に作る。宋本に従う。

禍を招き毒虫に螫される。その結果、国に害が加わる。我が手足も疾病に罹って安息することができない。(凶)

屯 陽孤亢極。多所恨惑。車傾蓋亡、身常憂懼。乃得具願、雌雄相從。

陽、孤にして亢極す。恨惑する所多し。車傾き蓋亡ひ、身常に憂ひ惶る。乃ち其の願を得て、雌雄相從ふ。

●亢極—亢は高ぶる。極は位を極める。屯の上卦坎の一陽は五の位に居り、民は皆初爻の一陽に帰服する。故に亢極という。●恨惑—上卦坎の象は加憂、故に「恨惑」といい、憂惶という。

九五の一陽が孤独で高きを極めて驕りたかぶっている。恨み惑うことが多い。車は傾き、車のきぬ傘は無くなり、身は常に憂い恐れる。(凶)しかし願いが叶って夫婦が一儲に暮せるようになる。

附記 四句が原型で、末の「乃得其願、雌雄相從」の二句は後の易家が挿入したものであろう。『大易通變』の和刻本にはこの二句が無い。

蒙 鵲鵲鵲鵲。專一無尤、君子是則、長受嘉福。

鵲鵲鵲鵲。專一尤無し。君子是れ則れば、長へに嘉福を受けん。

●「鵲」の字、各本「鵲」に作るは誤。宋本に依る。爾雅積鳥に「鵲鵲鵲鵲」とある。鵲鵲と鵲鵲は同鳥異名。共に布穀鳥ともいう。和名ふんどり、かつこう。旧曆二月穀雨の後始めて鳴き、夏至の後に止む。古、農家ではこの鳥が鳴くと雑穀の種子を蒔いた。故に布穀鳥と名づける。巢を作ることができないので、多く樹穴や鵲の巢の中に居て子を育む。朝には上より下に降り、暮には下より上に升って専一である。また郭公ともいう。詩經曹風鵲鵲に「鵲鵲在桑。其子七兮。淑人君子。其儀一兮。其儀一兮。心如結兮」より来たる蒙の上卦艮の象は鳥。故に鵲鵲鵲鵲という。また艮の象は止。故に専一という。

郭公はその鳴き声や動作が専一であるから禍いがない。君子(占を求める人)もこれを手本として、事を為すに専一であれば、永く立派な幸福を受けるだろう。(吉)

需 目闚足動。喜如其願。挙家蒙寵。

目闚き足動く。喜其の願の如し。家を挙げて寵を蒙る。

● 瞶は目の動くこと。説文に「瞶、目動也」。西京雜記に「目瞶得酒食」。● 足動―「足」の字は蓋し「指」の字の誤。左伝に「食指動」

目が動き指が動く。喜ぶことその願いが叶ったもののである。  
家中残らず寵愛を受ける。(吉)

附説 易林の原型は四句。この辞は三句より成る。末句の「拳家蒙寵」の上に一句が脱したものとする。

訟 罷馬上山。絶無水泉。喉焦脣乾、舌不能言。

罷馬山に上る。絶えて水泉無し。喉焦げ脣乾き、舌言ふ能はず。

● 罷馬―つかれた馬。罷は疲に通じる。つかれる。

疲れた馬が山に上る。途中全然水の水が無いので、喉が焦げつき脣がからからになる。舌がもつれて声も出ない。(凶)

師 倉盈庾億、宜種黍稷。国家富有、人民蕃息。

倉盈ち庾億く、黍稷を種うるに宜ろし。国家富有にして、人民蕃息

す。

● 庾は米ぐら。● 億は多い数。多いこと。● 黍稷―黍はもちぎび、稷はうるしきび。詩経小雅楚茨の「我黍與與。我稷翼翼。我倉既盈。我庾維億」より来る。

米倉に穀物が一ぱい貯えられているので、きびの種蒔きをするのに何の不自由もない。国家は富有で、人口は増殖する。(吉)

比 中夜狗吠、盜在牆外。神明祐助、銷散皆去

中夜狗吠え、盜、牆外に在り。神明祐助し、銷散して皆去る。

● 比の外卦坎の象は盜。約象に艮がある。艮の象は門闕。故に「盜在牆外」という。● 銷散―消え失せる。銷は滅、散。

夜なかに犬が盛んに吠え、どろぼうがかきの外にうろついている。しかし神様の御加護によって、どろぼうは消え失せる。(吉)

小畜 据斗運柁、順天無憂。所行造德、与樂並居。

斗に据り柁を運り、天に順って憂無し。行ふ所徳を造し、樂と並び

居る。

- 据斗——斗は北斗星。据は拠に通じる。北斗星に拠りしたがう。
- 運枢——枢星をめぐる。枢は星の名、天枢ともいう。北斗星の第一星。
- 造德——造は為、德を成就する。

北斗星によりしたが、い、枢星をめぐるってそむかない。もっぱら天に順うので憂がない。行いが天道になつてわが德を成就するので、いつも心が楽しい。(吉)

附説 宋本は三句で「所行造德」の句がない。汲古本に従つて四句とした。

履 空拳握手、倒地更起。富饒豊衍、快樂無已。

空拳握手、地に倒れて更に起つ。富饒豊衍、快樂已む無し。

- 「倒」の字、汲古本、「委」に作る。宋本に依る。● 富饒——富み豊か。富裕、饒は多。● 豊衍——豊かに多い。衍は水が満ち溢れる。

素手で人と手を握つて喜び（心がよくよせず、さっぱりしていて）失敗して地面に倒れるようになるが、勇気を起して再び起き上る。そ

の結果大いに富有になり、快樂やむことがない。(吉)

泰 不風不雨。白日皎皎。宜出駟馳。通利大道。

風ふかず雨ふらず。白日皎皎たり。宜しく出でて駟馳すべし。大道に通利せん。

- 「利」の字、宋本「理」に作る。汲古本に依る。● 白日——照り輝く太陽。● 皎皎——光り輝く形容。● 駟馳——馳せ廻る。

風も吹かず雨も降らず、太陽がキラキラ輝いて快晴である。よろしく郊外に出て馬に乗って駆け廻るべきだ。大道に通じて利益がある。(吉)

否 載日晶光、驂駕六龍。禄命徹天、封為燕王。

日の晶光に載り、六竜に驂駕す。禄命天に徹り、封ぜられて燕王と為る。

- 晶光——きらめく光、晶は精光。● 驂駕——驂は馬車の副馬。詩經鄭風大叔于田に「兩驂如舞」鄭箋に「在旁曰驂」駕は馬を車につけて走らせる用意をする。● 六竜——易乾卦象伝に「時乘六竜、以御天」

この六竜は乾卦六位の竜、即ち六爻の陽氣をいう。ここの六竜は天子の馬車の六馬をいう。●禄命―人間の食禄などの運命、命禄ともいう。王充の論衡、命禄篇に「禄命に貧富有り。知も豊殺すること能はず。」同、命義篇に「人に命有り。命なる者は貧富貴賤なり。禄なる者は盛衰興廢なり」●徹天―天に通ずる、天に達する。徹は通也、達也。

太陽のキラキラ輝くのに乗じて、天子行幸のお馬車の副え馬に乗ってお供する。その忠勤が天に通じ、燕の国王に封ぜられる運命に会う。(吉)

同人 子號索哺、母行求食。反見空巢、瞥弋長息。

子は号びて哺を索め、母は行きて食を求む。反りて空巢を見、弋を瞥りて長息す。

●「弋」の字、宋本「我」に作る。一本に依る。●哺は口中に食物を含む。食物を口移しに与えること。●瞥弋―弋はいぐるみ。繩を矢に繫けて射る。瞥は他人の悪口をいう。そしる。

子鳥が鳴きさけんで親鳥が餌を口移しにしてくれるのを求め、親鳥は外に飛んで食を求める。帰ってみると巢は空っぽで子鳥たちがいない。これは人間がいぐるみで子鳥を射殺したもので、親鳥はいぐ

るみの悪口を言っただけいきをつく。(凶)

大有 上帝之生、福祐日成。修德行惠、楽且安寧。

上帝の生、福祐日に成る。徳を修め恵を行ひ、楽み且つ安寧なり。

●「楽且安寧」の句、宋本は「楽安且寧」に作る。汲古本に依る。●上帝―天帝また天子。

天子様の御生活は立派で、神の御加護が日に加わる。天子様は徳を修め恵みを施されるので、心に楽みを抱き身は安らかである。(吉)

謙 山險難登、澗中多石。車馳轉擊、載重傷軸。僣負善蹟、跌踣右足。

山険しくて登り難く、澗中石多し。車馳せて轉撃ち、重き載せて軸を傷る。僣負善く蹟き、右足を跌踣す。

●僣負善蹟の句、一本「負僣差蹟」に作る。宋本に依る。●澗はたに、谷川。●轉は車軸の端。●僣負―肩に荷ったり、背に負ったりする。●跌踣―跌はつまずく。踣はつまずく。又折る。

山が険阻で登るに苦しく、谷川には大きな石が多い。坂道を車が走

ると車軸の端が石にぶつかり、重い荷物を載せているので、車軸が壊れる。重い荷物をかついだり背負ったりする者は足がつまずき、あげくのはては右足を骨折する。(凶)

附説 末の二句は恐らくは衍文。

豫 禹鑿龍門、通利水源。東注滄海、民得安存。

禹、龍門を鑿ち、水源を通利す。東して滄海に注ぎ、民安存するを得。

●龍門―夏の禹王が黄河の水を導き、龍門に至り山を鑿って流れを通ぜしめた。

夏の禹王が黄河の水を導き龍門を鑿ってその流れを通ぜしめる大工事をした。その結果、黄河は東流して青海原に注ぎ入り、氾濫の禍がなく、人民は安らかに存することができた。(吉)

随 乗龍上天。兩蛇為輔。湧躍雲中、遊觀滄海。民樂安処。

竜に乗りて天に上る。兩蛇輔を為す。雲中に湧躍し、滄海を遊觀す。民樂みて安処す。

●「民樂安処」の句、宋本、「安樂長処」に作る。汲古本に依る。  
●湧躍―おどりあがる。湧は上る。  
竜に乗って天に昇る。二匹の蛇が我を助けてくれる。雲の中を躍り上り、青海原を眺めわたして天翔ける。人民は樂んで安らかに生活する。(吉)

壘 彭祖九子、拋徳不殆。南山松柏、長受嘉福。

彭祖九子、徳に抛りて殆ふからず。南山の松柏、長へに嘉福を受ける。  
●「柏」の字、宋本「栢」に作るは誤。●彭祖―顓玉の玄孫、姓は籛、名は鏗。善く導引して氣を行る。堯の時、大彭に封ぜらる。殷末に至りてすでに七百六十七歳にして衰えず、王以て大夫となす。その術を伝えて験があった。彭祖を殺そうとしたので、彭祖は去って行く所が分らない。『神仙伝』に伝を立つ。

彭祖には九人の子供があったが、その行いは道徳を守って危険がない。南山の松柏の色を変えないように堅い節操があるので、末長く立派な福祿を受けるだろう。(吉)

臨 南山昊天、刺政閔身。疾悲無辜。背憎為仇。

南山昊天、政を刺り身を閔む。疾み悲みて辜無し。背き憎みて仇と為る。

●「閔」の字、宋本「閔」に作るは誤。●南山―詩經小雅の篇名。

毛詩では節南山。節南山は大夫が周の幽王を刺って身世を悲み憫んだ詩。●昊天―詩經小雅の篇名。毛詩ではこれを雨無止とする。齊詩は雨無止の首句に浩浩昊天の語があるので、この篇を昊天とした。節南山と同じく幽王を刺って身世を悲み憫んだ詩。●刺政―節南山の詩に「赫赫たる師尹。不平何と謂はん」とあるを受けていう。

●閔身―閔は憫と同じ。あわれむ、憐憫。雨無止の詩に「此の無罪の若き、淪めて胥以に徧し」とあるを受けていう。●辜は罪。つみ。

詩經小雅節南山と同小雅昊天（毛詩では雨無止）とは共に周の大夫が幽王の虐政をそしり、罪無き人民の身をあわれんだ詩である。人民は幽王を嫉みわが身を悲しんでいるが罪はない。人民は王に背き離れて王を憎むこと仇讐の如く甚だしい。（四）

觀 江河淮濟、天之奧府、衆利所聚、可以饒有。樂我君子、百福是受。

江河淮濟は、天の奥府、衆利の聚る所、以て饒有なるべし。我が君

子を樂ましめ、百福是れ受く。

●「濟」の字、宋本「海」に作るは非。●一本「百福是受」の句がない。●江河淮濟―四つの川の名。爾雅积水に「江河淮濟為四瀆」●奥府―奥深くにある大切なくら。●饒有―豊富なこと。

江河淮濟の四大河は、大自然の大切なくらで、そこには多くの利益が集っていて、魚貝類が豊富にある。わが君子を樂しませ、君子（占を求める人）はもろもろの福利をそこから受ける。（吉）

噬嗑 堅氷黃鳥、終日悲愁。不見白粒、但覩藜蒿。數驚驚鳥、為我心憂。

堅氷黃鳥、終日悲み愁ふ。白粒を見ず、但だ藜蒿を覩る。數驚驚鳥に驚き、我が心の憂を為す。

●「終日」宋本「啼哀」に作るは非。●黃鳥―和名こうらいうぐいす。わが国の鶯より大。黒眉にして嘴尖り紅く、脚青く遍身黃色、羽及び尾に黒毛があつて雜わる。三四月の頃鳴く。声円滑。詩經周南葛覃に「黃鳥于飛」全邶風凱風に「睨皖黃鳥」全小雅黃鳥に「黃鳥黃鳥」全小雅縣蠻に「縣蠻黃鳥」朱註に「黃鳥は鵬なり」●藜蒿―草の名、藜はあかぎ、蒿はよもぎ。●驚鳥―あらあらしい鳥。たか、はやぶさの類。白粒の「白」、宋本「甘」に作る。汲古本に従う。

堅い氷が閉ざしている厳寒の日に、うぐいすが終日悲しく鳴いている。よい穀物が得られず、ただあかざやよもぎの餌があるのみである。そのうえ時々たかやはやぶさに驚かされ、心が心配でおちつかない。(凶)

貴 室如懸磬、既危且殆。早見之士、依山谷処。

室、磬を懸くる如く、既に危く且つ殆し。早見の士は、山谷に依りて処る。

●磬―玉や石で折れ曲った長方形に造り、つるして鳴らす楽器。●早見之士―先が早く見える人。

部屋は磬を吊したように不安定で、既に危険が逼っている。先の見通しが早くきく人は難を避けて山谷に隠遁する。(凶)

剝 大禹戒路、蚩尤除道。周匝万里、不危不殆。見其所使、无所不在。

大禹路を戒め、蚩尤道を除く。万里を周匝して、危からず殆からず。其の使ふ所を見るに、在らざる所無し。

●「戒」の字、宋元本「式」に作る。汲古本に従う。●大禹―夏の

禹王。●蚩尤―史記五帝紀に「蚩尤乱を為す。黄帝師を徴し、蚩尤と涿鹿の野に戦ひ、遂に蚩尤を禽にして殺す」●周匝―めぐりまわる。匝は周、めぐる。●除道―道を整備する。除は治める。易の萃卦大象に「君子以除戎器、戒不虞」

禹王は行幸するのに道路の警戒を充分にし、蚩尤は外出するに当たって道路を整備した。このように警戒を充分にしたので、万里の道を巡り回って危険が少しも無かった。下僕も悉く備って何の不自由もなかった。

復 三人為旅、俱帰北海。入門上堂、拜謁王母。勞賜我酒。

三人旅を為し、俱に北海に帰る。門に入り堂に上り、王母に拝謁す。勞して我に酒を賜ふ。

●三人―復の下卦震の象は人、震の数は三。故に三人という。●王母―西王母の略。西王母は仙人の名。西のはての崑崙山に住み、不死の薬を持っていた。周の穆王が西王母に瑤池で宴せられた。漢武内伝に「西王母七月七日を以て帝に降る。侍女に命じて桃を索めしむ。須臾にして玉盤を以て桃七枚を盛る。大さ鴨の卵の如し。形円く色青し。以て王母に呈す。母五枚を以て帝に与ふ」



三人連れだつて旅をし、一しょに北海に帰る。瑤池では門に入り御殿に登つて西王母にお目にかかった。西王母は我等をねぎらつてお酒を飲ませて下さつた。(吉)

无妄 傳言相誤。非干徑路。鳴鼓逐狐、不知迹処。

傳言相誤る。干<sup>もと</sup>むる徑路に非ず。鼓を鳴らして狐を逐<sup>お</sup>ふも、迹<sup>あと</sup>処を知らず。

●干逕路―「干」の字、俗本「于」に誤る。干は求。徑路は小みち。聞き伝えた言葉が間違つていて、わが求める小路ではなく道を間違えてしまった。太鼓を鳴らして狐を逐<sup>お</sup>つたが、狐の住みかがわからない。(凶)

大畜 三羊争雌、相逐奔馳。終日不食。精氣勞疲。

三羊雌を争ひ、相逐ひて奔馳<sup>ほんし</sup>す。終日食はず、精氣<sup>せいき</sup>勞疲す。

●「羊」の字、汲古本「年」に作る。「雌」の字、汲古本「妻」に作る。共に宋本に依る。●大畜の互体兌の象は羊、約象震の数は三、故に三羊という。●精氣―精神、氣力。●勞疲―疲労、労も疲もつ

かれる。

三匹の雄羊が一匹の雌羊を争つて、たがいに追つて奔り駆ける。終日食わず、氣力がつかれてへとへとなる。(凶)

頤 純服素裳、載主以興。德義茂生、天下帰仁

純服素裳、主を載せて以て興る。德義<sup>とくぎ</sup>茂んに生じ、天下仁に帰す。

●純服―雜り氣のない色の服。ここでは喪服。●素裳―各本「黄裳」に作る。尚秉和本に従う。素裳は白色のもす。喪服のこと。●載主―宋本「載上」に作る。尚秉和本に従う。主は木主、位牌。ここでは文王の位牌。史記周本紀に「武王東のかた兵を觀<sup>み</sup>して孟津に至る。文王の木主を為り、載するに車を以てし中車とす。武王自ら太子発と稱す。文王を奉じて以て伐ち、敢て自ら専らにせざるを言ふ」。●「以」の字、宋本「與」に作る。尚秉和本に従う。●茂生―「茂」の字、宋本「既」に作る。尚秉和本に従う。茂生は盛んに生ずる。茂は盛。

武王は喪服を着けて、父文王の位牌を車に載せ、文王を奉じて殷の紂を征伐して周の国を興した。武王の道德は盛んに行われて、天下の人民は皆武王の仁に帰服した。(吉)

大過 桀跖竝処、人民愁苦。擁兵荷糧、戰於齊魯。

桀跖竝び処り、人民愁苦す。兵を擁し糧を荷ひ、齊魯に戦ふ。

- 桀跖―桀は夏の桀王。暴虐な天子。跖は盜跖。大盜、柳下惠の弟。
- 擁兵―刀劍を持つ。擁は抱く。兵は武器。

夏の桀王や盜跖のような悪人が多く居て、人民は憂い苦しむ。国は乱れ人民は刀劍を持ち兵糧をかついで、齊の国や魯の国で戦争しなければならぬ。(凶)

坎 黃鳥采芣、既嫁不答。念我父兄、思復邦国。

黃鳥采芣、既に嫁して答へられず。我が父兄を念ひ、邦国に復らんと思ふ。

- 黃鳥● 采芣―共に詩經小雅の篇名。共に夫が久しく行役に出て、空閨を守る婦を憐んだ詩。黃鳥の首章に「黃鳥黃鳥、穀に集る無れ。我が粟を啄む無れ。此の邦の人、我に肯て穀からず。言に旋り言に歸り、我が邦族に復らん。」采芣の首章に「終朝采芣。一芻に盈たず。予が髮曲局、薄か言に歸りて沐す」。

詩經小雅の黃鳥采芣の二篇に見えるように、既に結婚したが、夫は長い間行役に出て空閨を守り、夫は我が愛情に答えてくれない。娘の頃父や兄の傍に居たことがしきりに思い出され、離婚して生國に帰りたいと思う。(凶)

離 胎生孚乳、長息成就。充滿帝室、家國昌富。

胎生孚乳、長息成就す。帝室に充滿し、家國昌富。

- 胎生―母の胎内で發育して生れる。● 孚乳―鳥が卵を抱いてかえす。

胎兒が出世して次第に成長し、立派に一人前になる。このようなたのもしき若者が王室に充滿しているので、國は富み繁榮する。(吉)

咸 三人求鉄、反得丹穴。女清以富、黄金百鎰。

三人鉄を求め、反って丹穴を得。女清以て富み、黄金百鎰。

- 三人―咸卦の約象に乾がある。乾の象は人。咸の下卦艮の数は三。故に三人という。● 「鉄」の字、諸本「橘」に作る。然し丹穴の句から考えれば、鉄の字に作るべきである。鉄と丹とは皆土中に産す。

故に鉄を求めて丹を得という。(霍云升) ●丹穴―汲古本「大栗」に作るは非。丹穴は丹砂を出す山谷の穴。 ●女清―史記貨殖列伝に「巴蜀の寡婦清、其の先丹穴を得て其の利を擅にす」。「清」の字、諸本皆「貴」に作る。顧千里の校に依って改む。顧千里曰く「清なる者は人名。貨殖伝の所謂巴の寡婦清なり。」 ●百鎰―二十両を一鎰とする。一説に二十四両。百鎰は多くの富。

三人が山で鉄を掘り当てようと血眼になって探したが、却って山谷で丹砂を掘り当てた。先祖のお蔭で巴蜀の寡婦女清は巨万の富を築いた。(吉)

恒 東山西岳、会合俱食。百家送從、以成恩福。

東山西岳、会合して俱に食す。百家送り従つて、以て恩福を成す。

東や西の山岳で、諸侯と会合して一しよに宴会して親睦する。もろもろの人はこれを見送りこれに従つて、その恩恵福祐を受ける。

(吉)

遯 弱雞無距、與鵠交闘。翅折目盲、為鳩所傷。

弱雞距無くして、鵠と闘を交ふ。翅折れ目盲し、鳩の傷つくる所

と為る。

●距はけづめ、雞の脚のうしろにある爪。雞が闘うとき、けづめで相手をけり防ぐ。

弱い雞がまだけづめも無いのに、鵠と戦いを交える。その結果、つばさは折れ目はつぶされて、弱い鳩にさえ傷つけられる。(凶)

大壮 隙大牆壞、蠹衆木折。狼虎為政、天降罪罰。高弑望夷、胡亥以斃。

大牆に隙ありて壞れ、蠹める衆木は折る。狼虎政を為さば、天、罪罰を降す。高、望夷に弑し、胡亥以て斃る。

●蠹―木食い虫。又むしばむ。 ●高―秦の丞相趙高。権を専らにす。 ●望夷―宮殿の名。 ●胡亥―秦の二世皇帝胡亥。史記秦始皇本紀に「趙高権を専らにし、二世を望夷宮に弑す」

大きな垣根も隙間があるために壞れ、木食い虫のために木の芯をむしばまれた多くの木は脆くも折れる。「これと同じく」虎狼のような貪欲な為政者が政治をすれば、天はその国に滅亡という罪罰を降す。「その例としては」秦の二世胡亥は権を専らにする丞相趙高の

ために望夷宮で弑せられ、秦は亡んだ。(凶)

附説 「高弑望夷」以下の二句は後の易家が附加したものであろう。

晋 三癡俱走、迷路失道。惑不知帰、反入患口。

三癡俱に走り、路に迷ひ道を失ふ。惑ひて帰るを知らず、反つて患口に入る。

●癡―おろか。痴に同じ。●晋の下卦坤の数は三。故に三癡という。

三人の阿呆が一しよに走り、路に迷つて道がわからない。心に惑うて帰ることを忘れ、却つて患難の入口に踏み入ってしまった。(凶)

明夷 弓矢俱張、把彈折絃。丸発不至、道遇害患。

弓矢俱に張り、彈を把り絃を折る。丸発すれども至らず、道、害患に遇ふ。

●彈は彈弓、はじき弓。●丸は彈丸。

弓矢をひきしぼり、彈き弓を手にとってその絃を切ってしまった。

弾き弓の彈丸を放つても目的地にとどかず、道中災害患難に遇う。(凶)

家人 三女求夫、伺候山隅。不見復関、長思憂歎。

三女夫を求め、山隅に伺候す。復関を見ず、長く思ひ憂へ歎く。

●憂歎―宋元本「歎憂」に作る。韻を失う。汲古本に依る。関、歎は韻。●復関―男の住む土地の名。詩経衛風氓に「不見復関、泣涕漣漣」

三人の女が夫を求めて山隅にまで出向いたが、男の住んでいる復関が見えないので、長く男を思い憂え歎く。(凶)

睽 陽旱炎炎、傷害禾穀。穡人無食、耕夫歎息。

陽旱炎炎、禾穀を傷害す。穡人食無く、耕夫歎息す。

●陽旱―陽氣が盛んで日照りが続くこと。●炎炎―火が盛んに燃え上がる形容。●禾穀―穀物。禾は稲。●穡人―農夫。穡は穀物を収穫すること。

陽氣が盛んで日照りが続き、穀物が全部枯死する。農夫は食無く、歎いてため息をつく。(凶)

蹇 騎狔逐羊、不見所望。径涉虎廬、亡羊失羔。

狔に騎りて羊を逐ひ、望む所を見ず。径して虎廬を涉り、羊を亡ひ羔を失ふ。

●狔―豚に全じ。釈文に「狔本又作豚」●径―こみち、蹇の下卦艮の象は径路。●羔―こひつじ。●「廬」の字、宋本「穴」に作る。汲古本に依る。一本「羝失羔亡」に作る。

豚に乗って羊を追っていったが、あたりが見えなくなった。こみちを行って虎の棲み家を通ったが、そこで追っていった羊や小羊を見失ってしまった。(凶)

解 暗昧冥語、転相註誤。鬼魅所舍、誰知臥処。

暗昧冥語、転じて相註誤す。鬼魅の舍る所、誰か臥す処を知らん。

●転相―宋本「相伝」に作る。四部叢刊本に依る。●冥語―道理にくだしい言葉。●註誤―欺き迷わす。●鬼魅―ばけもの、妖怪変化。

道理にはずれたくらい言葉は、次第に人を欺き迷わすものである。ばけもの屋敷(道理にくだしい言葉に例える)といっても、誰が一体ばけものが寝ている処をはつきり知る者があろうか。(凶)

損 姬姜祥淑、二人偶食、論仁議福、以安王室。

姬姜祥淑、二人偶食、仁を論じ福を議り、以て王室を安んず。

●姬―周の王室の姓。ここでは周公旦を指す。●姜―齊の国の姓。ここでは太公望を指す。齊に封ぜられる。●祥淑―祥は福。淑は善。立派でめでたい。

周公旦と太公望はめでたく立派で、この二人が一しょに食事して、仁を論じ福を謀り、心を合せて王室を輔ける。(吉)

益 公孫駕驪、載聘東齊。延陵說産、遺季紵衣。

公孫驪に駕し、載めて東齊に聘す。延陵産を説び、季に紵衣を遺る。

●公孫―呉の公子季札のこと。●驪―純黒色の馬。●聘―訪れる。●延陵―季札のこと。季札は延陵に封ぜられ、延陵の季子と言った。●産―鄭の大夫子産のこと。●紵衣―いちび(麻の一種)で織った麻

布。呉の公子季札がかつて鄭に聘して子産を見、一見旧知の如く相喜び、子産に縞帯を与えた。子産は紵衣を季札に献じた。事は左伝襄公二十九年に見える。

呉の公子季札は賢名があり遍ねく当世の賢士大夫と交つた。嘗て黒毛の馬に乗り、始めて鄭の国を訪れ、鄭の大夫子産と一見旧知の如く喜んだ。子産は季札に麻の衣を献上して敬意を表した。(古)

夫 孤竹之墟、老婦亡夫、傷於蒺藜、不見其妻。東郭棠姜、武子以亡。

孤竹の墟、老婦夫亡し。蒺藜に傷つき、其の妻を見ず。東郭棠姜、武子以て亡ぶ。

●孤竹之墟―孤竹は国の名。墟は丘。●蒺藜―はまびし。蔓草にして三角又は四角の刺のある実を結ぶ。●其妻―宋本、少妻に作る。翟云升校略本に従う。易困卦六三に「石に困み蒺藜に抛る。其の宮に入り、其の妻を見ず。凶」●棠姜―斉の棠公の妻。東郭偃の姉。●武子―崔武子、名は杼。棠公が死し、崔武子がこれを弔って棠姜を見てこれを美とし、終にこれを要して娶った。事は左伝襄公二十五年に見える。●武子―各本「武氏」に作る。尚秉和本に従う。●老婦―各本「失婦」に作る。尚秉和本に従う。●少斉―各本「少妻」に作る。尚秉和本に従う。

孤竹国のある老婦が夫に先きだたれて孤独となり、いばらに傷つき、さんざん苦勞する。また其の妻を見ずというような孤独の悲哀さを嘗める。崔武子は棠公のお弔いに行つて棠公の妻で東郭偃の姉の棠姜に思いを寄せ、これを娶つて、終に滅亡した。(凶)

附説 「東郭棠姜、武子以亡」の二句は後の易家が附加したもので、恐らく衍文。「老婦亡夫」と「不見其妻」とは矛盾して一貫しない。蓋しただ孤独を現わすものとして引用したものと思われる。

妬 仁政不暴。鳳凰来舍。四時順節、民安其処。

仁政暴せず。鳳凰来り舍る。四時節に順ひ、民其の処に安んず。

王様は仁愛の政治をなさつて人民に少しも暴虐を加えない。瑞鳥の鳳凰も来たり止つてめでたい。春夏秋冬は時節通りに巡り、人民は安心して生活する。(吉)

萃 任劣力薄、羸驚恐怯。如蜩見鵲。不敢拒格。

任劣り力薄く、羸驚恐怯。蜩の鵲を見る如く、敢て拒格せず。

●犀驚―かよわくにぶい。●蝟―はりねずみ。●鵠―かささぎ。史記亀策伝に「蝟、鵠に辱めらる」郭璞注「蝟能く虎を制す。鵠を見れば則ち地に仰ぐ」●拒格―こばみさからう。

能力が薄くして劣り、か弱く鈍くてびくびくしている。虎をも恐れさせる針鼠であるが、鵠を見ると地にそれを仰ぎ敬うように、強いて拒み逆らおうとしない。(凶)

升 衛侯東遊、惑於少姫。亡我考妣、久迷不來。

衛侯東に遊び、少姫に惑ふ。我が考妣を亡へども、久しく迷ひて来らず。

●衛侯―衛の文公。●少姫―衛の女。斉の桓公の夫人。●考妣―死んだ父母。礼記曲礼に「生曰父母、死曰考曰妣」

衛の文公は国難を避けて東のかた斉国に遊び、そこで衛の出身である斉の桓公夫人少姫の色香に惑うた。自分の国に居る父母が死んでも恋に迷い目が眩んで本国に帰らなかつた。(凶)

困 噂噂所言、莫如我垣。歆喜堅固、可以長安。

噂噂言ふ所、我が垣に如く莫れと。歆喜堅固、以て長安なるべし。

●噂噂―多言すること。説文に「噂、聚語也」。詩経十月之交に「噂沓背憎」毛伝に「噂猶噂噂。沓猶沓沓」鄭箋に「噂噂沓沓、相對談語也」

人びとは多く集って我が垣根は危険だからそこに行くなと言う。「そういう危険を避けて行かなければ」歆ぶことが堅固で、いつまでも安らかに暮せる。(吉)

井 黿鳴岐山、鼃應幽淵。男女媾精、萬物化生。文王以成、為開周庭。

黿、岐山に鳴き、鼃、幽淵に應ず。男女精を媾せ、萬物化生す。文王以て成ぎ、周庭を開くことを為す。

●鼃―大きなすっぱん。●鼃―すっぱん。説文段注に「鼃は鼃と同形。ただ大小の別を分つ。」後漢書張衡伝に「樊噲披帷入見高祖。高祖踞洗以對酈生。當此之會、乃鼃鳴而鼃應也」鼃鳴鼃應は君臣相感ずるに喩える。鼃は鼃を以て雌とする。故に鼃鳴鼃應という。埤雅積魚に「鼃は大鼃なり。鼃以て雄となす。故に鼃鳴きて鼃應ずと。所謂雄雌上風に鳴き、雌下風に鳴きて風化す。即ち此の類是なり。」●鼃の字、宋本「鸞」に作る。鸞は鳳凰の類。文王の時、鳳

岐山に鳴き、大禹の時、亀洛水に出づという。汲古本に依り、鸛は鼃の誤とみる。●鼃の字、宋本「亀」に作る。汲古本に依る。●男女媾精―媾は合。あわせる。男と女が交接する。繫辭伝下に「男女媾精、万物化生。」

雄のすっぽんが岐山に鳴き、雌のすっぽんが幽淵でこれに相応じて鳴く。「このように雌雄男女が仲善く相交われば、万物は生れ生ずるのである。」文王は惡逆の者を平定して、ここに周の朝廷を開く。(吉)

附説 「文王以成、為開周庭」の二句は恐らく後の易家の附加。

革 玄黄虺隤、行者勞疲。役夫憔悴、踰時不歸。

玄黄虺隤、行く者勞疲す。役夫憔悴、時を踰えて歸らず。

●玄黄―黒色の馬が疲れて黄色くなる。●虺隤―病み疲れる。●勞疲―疲勞に同じ。●役夫―徵発されて土木工事に従ったり、国境警備に当らせられる人。●憔悴―やつれる。やせ衰える。詩経周南卷耳に「陟彼崔嵬、我馬虺隤」「陟彼高岡、我馬玄黄」「陟彼砠矣、我馬瘠矣、我僕痡矣、云何吁矣」

〔行役に出て遠く国境守備に徵発されている夫を思慕するあまり、

夫のいるであろう遙か彼方の空を望もうと、黒い馬に乗って高い山に登る。〕馬は疲れて黄色くなり、下僕も疲勞する。夫は行役に出て久しくさぞかし瘦せ衰へたことであろう。長い間歸って来ない。

(凶)

鼎 弱足刖跟、不利出門。市賈无利。折亡為患。

弱足刖跟、門を出づるに利ろしからず。市賈无く、折亡患を為す。

●刖跟―刖は足の筋を断ち切る刑。跟はくびす。かがと。●市賈―売買の値段。「无」の字、宋本「不」に作る。

かよい足や刖刑を受けたかがとでは、門を出て外に行くにはよろしくない。(すべて実力がなければ社会に出て活動するに不可であることの例え。) 商売をしても利益を挙げることができず、折亡の患がある。

(凶)

震 懸貍素餐、居非其安。失輿剝廬、休坐徒居。

懸貍素餐、居其の安きに非ず。輿を失ひ廬を剝し、休坐徒居す。

●懸貍素餐―貍はむじな。懸貍はむじなが庭に懸けてある。素餐は



功無くして徒らに禄を食む。餐は食に同じ。元本「餐」の字を「饗」に作るは非。この句は詩経魏風伐檀の「不狩不獵、胡瞻爾庭有懸貍兮。彼君子兮、不素餐兮」より来る。この詩の意味は「狩獵の苦勞をしないで、どうして汝の庭に貍の獲物が懸けてあるのか、汝はどうして功績も無いのに大禄を受けているのか、彼の君子は功無くして禄を食むことを欲しないものだ。」との意。●失輿剝廬―こしぐるまを奪われ、いおりを剥ぎ取られる。易剝卦上九に「君子得輿、小人剝廬」

狩獵の勞無くして獲物のむじなを庭に懸け、功無くして高禄を食んでいる。その地位は決して安定していない。立派な馬車や豪華な家屋を無くし、位を失って空しく暮すようになるだろう。(凶)

艮 民怯城惡、姦人所伏。寇賊大至、入我郭郭。妻子俘獲。

民、怯にして城惡く、姦人の伏する所。寇賊大に至り、我が郭郭に入る。妻子俘獲せらる。

●郭郭―城の外囲い。城外の大きいくるわ。●俘獲―生捕りにされる。俘は捕虜。左伝成公九年に「楚子重、陳より莒を伐ち、渠丘を囲む。渠丘城惡くして、衆潰えて莒に奔る。楚遂に渠丘に入る」とあるより来たものであろう。

人民は臆病で勇氣がなく守る城も堅固でなく、城内には心のよくない者が潜伏している。賊兵が大いに攻めて来て、難無く我が城外の囲いの中に侵入して来る。妻子は賊のために生捕りにされる。(凶)

附説 末句の妻子俘獲は衍文であらう。

漸 陽低頭、陰仰首。水為災、傷我寶。進不利、難坐守。

陽、首を低れ、陰、首を仰ぐ。水、災を為して、我が宝を傷る。進んで利あらず、坐守し難し。

●漸卦の互体は坎。坎は陽卦。故に陽低頭という。●約象は離。離は陰卦。故に陰仰首という。低頭といい仰首というは離は坎の上にあるからである。●「寶」の字、宋本「足」に作る。汲古本に依る。●「難坐守」、宋元本「難生子」に作る。翟云升に従いて改む。

陽氣が衰え、陰氣が盛んになる。洪水が災害をなして、我が宝を破壊する。進むに利益がなく、安閑として守っていることができない。(凶)

附説 易林の辭は一句四字が定型であるが、このような三字句も若干ある。周易の卦爻辭にも三字句は間々ある。(婦妹上六・賁初九・

婦妹 背北相憎、心意不同。如火與金。

背北相憎み、心意同じからず。火と金との如し。

●背北―たがいこそむくこと。北は乖。そむく。

たがいにそむいて憎み合い、心が全くかけ離れている。それは譬え  
ば火と金との如くである。(凶)

附説 この林辭は三句であるが、恐らく「如火与金」の下に一句が  
脱したものであらう。

豊 太微帝室、黄帝所値。藩屏周衛、不可得入。常安无患。

太微帝室、黄帝の値ふ所。藩屏周衛、入るを得べからず。常に安ら  
かにして患無し。

●太微―星座の名。翼。軫の北にあり、天子の宮廷。五帝の座。十  
二諸侯の府に象どる。獅子座の西端附近の十星に当る。●帝室―帝  
座で紫微垣。北斗の東北にあり、十五星より成る。東西に列し、北

極を中軸として藩屏の状をなす。●黄帝―星の名。軒轅星。晋書天  
文志に「軒轅十七星、七星の北に在り。軒轅黄帝の神、黄竜の体な  
り。」●「値」の字、宋元本「宜」に作る。汲古本に依る。●藩屏  
―かきね。●周衛―ぐるりととりまいて守ること。

太微星や紫微星や軒轅星が集って、多くの星がかきねのようにぐる  
りと取りまいて敵重に守っているので、侵入することができない。  
常に安心して何の心配ごともない。(吉)

附説 末句の常安无患の句は註文の竄入したものであらう。

旅 藟栗犠牲、敬享鬼神。神嗜飲食、受福多孫。

藟栗の犠牲、敬んで鬼神に享す。神は飲食を嗜む。福を受けて孫多  
し。

●藟栗―小牛の角が始めて生ずるとき、藟の如く栗の如くその形が  
小さい。礼記内則に「天地を祭るの牛は角藟栗」●享―献ずる。神  
に供える。

小牛を犠牲として、恭しく神にお供えをする。神は飲食を好み喜ば  
れるので、福を受けて子孫が繁昌する。(吉)

異 出門逢惡、爲患爲怨。更相擊刺、傷我手端。

門を出でて惡に逢ひ、患を爲し怨を爲す。更も相擊刺し、我が手端を傷つく。

●爲患―「患」の字、翟云升校略本「福」に作る。宋本「與禍」に作る。汲古本に従う。

門を出て惡人に逢い、患いかつ怨む。互いに相手と刀劍を抜いて闘い、我が手のはしを負傷する。(凶)

兑 鷁飛中退。挙事不遂、宋人乱潰。

鷁飛びて中ごろ退く。事を挙げて遂げず、宋人乱潰す。

●「遂」の字、宋本「進」に作る。元本に依る。●「宋」の字、宋本「衆」に作るは誤。●鷁―水鳥。鷁に似て大きく、風波によく堪えて飛ぶ。鷁飛中退は左伝の六鷁退飛をいう。これ宋の襄公が大敗する前徴。左伝僖公十六年正月に「六鷁退き飛んで宋の都を過ぐ。」

●宋人乱潰―宋国の軍隊が乱れて全滅する。僖公二十二年十一月「宋公楚人と泓に戦ふ。宋師敗績す。」

鷁という水鳥が途中で風のために退き飛んで宋の都を過ぎた。「これは凶兆で」事を為しても成功しない。宋の軍隊は楚と戦って大敗して全滅した。(凶)

附説 蓋し初句を脱したものであろう。原型は四句。退、潰は韻。

渙 跛踦相随、日暮牛罷。陵遲後旅、失利亡雌。

跛踦相随ひ、日暮れ牛罷る。陵遲して旅に後れ、利を失ひ雌を亡ふ。

●跛踦―跛も踦もちんば。●罷―つかれる。●陵遲―盛んなものがしだいに衰えてゆく。●旅は衆。もろもろ。子弟たち。

ちんばどうしが連れだつて旅をし、日暮れになってわが乗る牛もつかれてくる。しだいに衰えて子弟たちに後れ、利益を失い、妻にもはぐれる。(凶)

節 隆角博頰、位至公卿。世祿久長、起動安寧。

隆角博頰、位、公卿に至る。世祿久長、起動安寧なり。

●「頰」の字、宋本「預」に作るは非。●隆角―隆準に同じ。高い

鼻柱。●博顙―広い額。隆角博顙は貴人の相。「隆」の字、宋元本「竜」に作る。翟云升曰く「竜疑當作隆。隆角猶言隆準。」●世禄―公卿が国家に功勞があつて、子孫が世々その禄を受ける。孟子に「仕者世禄」

鼻が高くひたいが廣くて貴人の相があり、公卿の位に出世する。国家に功勞があつてその俸禄を子孫に永久に伝え、起居言動すべて安泰である。(吉)

中孚 舜升大禹、石夷之野。微詣王庭、拝治水土。

舜、大禹を升す、石夷の野。微されて王庭に詣り、拝して水土を治む。

●石夷之野―伝説上の禹の生地、石夷は石紐山の夷。路史後記に「秦宓曰、禹生石紐」雜書に「有人出石夷」●「拝」の字、宋本「并」に作るは非。

舜帝は禹を石夷の野から拔擢した。禹は舜帝に召されて朝廷に至り、命ぜられて黄河の洪水を治めた。(吉)

小過 從風放火、荻芝俱死。天害集房、叔子中傷。

風に從ひて火を放ち、荻芝俱に死る。天害房に集り、叔子傷に中る。

●天害―宋元本「三害」に作る。翟云升校本に依る。公羊伝襄公九年に「宋火」疏に「春秋之義不記人火、火者皆是天害也。」●房―部屋。●叔子―末の子供。

風に從つて火を放ち、荻も芝も皆枯れる。天の災害がわが部屋に集り、末の子供が負傷する。(凶)

既濟 榱生荊山、命制輪班。袍衣剝脱、夏熱冬寒。飢餓枯槁、衆人莫憐。

榱荊山に生じ、輪班に命制す。袍衣剝脱して、夏熱く冬寒し。飢餓枯槁して、衆人憐む莫し。

●「榱」宋本「榱」に作るは非。元本に依る。●「衆」宋元本「莫」に作るは非。●榱は木の名、榱に依た喬木。玉篇に「榱、榱木、似余章」。荊山には多く異材を産する。●輪班―公輪子魯班のこと。孟子注に見ゆ。春秋時代の巧匠。●命制―命じて造らせる。●袍衣―下着。長襦。●枯槁―元氣が無くなる。

荊山に良質の榱の木が生じたので、良工の輪班に命じて器具を造ら

せた。下着を脱いで裸になり、夏は熱く冬は寒い。食物に飢えて元気が無くなっても、衆人はこれを憐まない。(凶)

附説 最後の二句は蓋し衍文。

未済 長面大鼻、来解已憂。遺吾福子、恵我嘉喜。

長面大鼻、来って己が憂を解く。吾に福子を遣り、我に嘉善を恵む。

長い顔をし大きな鼻をしたサンタクロースのお爺さんが来て、私の心配事を解消してくれる。それどころか、私に子供を授けてくれ、私によき喜び事を恵み与えてくれる。(吉)

附説 宋元本には「恵吾嘉喜」の句の上に「與我恵妻」の句があるが無い方がよい。

(本学教授・文博・漢学)